

平成20年5月12日

保 護 者 様

埼玉県立川口高等学校  
校長 梁川 和弘

### 麻しん（はしか）の予防接種について

日本では、昨年から十代二十代の年齢層を中心に麻しんが流行しており、現在も発生人数こそ少ないながら埼玉県内の学校においても麻しんの患者が発生しています。

麻しんが流行した原因は、この世代の方が、麻しんの予防接種を一回も受けていなかった、あるいは、一回は受けたものの免疫が獲得できなかった者が一定程度いたからであるといわれています。

麻しんを確実に予防するためには2回の予防接種が必要であるため、平成20年度から平成24年度までの5年間に限り、これまで1回しか定期予防接種の機会を与えられていなかった中学1年生・高校3年生に相当する年齢の者が麻しんの定期予防接種対象者となりました。

麻しんの感染力は、他の感染症に比べて非常に強く、大人が罹患すると重篤な症状を引き起こし、死亡したり、命をとりとめても後遺症を残してしまうと考えられています。

予防接種は、麻しんにかからないようにするための最も効果的な方法です。

高校3年生に相当する年齢の者には、市町村の保健センター等から麻しんの予防接種についてのお知らせが届いておりますのでご確認ください。

学校においては集団生活の場であることを考慮していただき、配布した「高校3年生のみなさん はしか（麻しん）・風しんの予防接種を受けましょう。」のリーフレットから麻しん予防接種の必要性について十分ご理解をいただき、下記の内容を参考に予防接種をしていただくようお願いします。

### 記

#### 1 麻しんについて

- (1) 麻しんの感染力はインフルエンザの約6倍。免疫がないまま15歳以上で感染すると7～8割は入院するほど重症化する。
- (2) 麻しんに罹患した場合、自分のみならず自分が感染源となる可能性があり、予防接種は自分が感染源となるのを防ぐ社会防衛の意味合いがある。

#### 2 予防接種について

次の(1)及び(2)の条件に該当する場合を除き、麻しんの予防接種を受けて下さい。

- (1) 過去に麻しんの予防接種を2回受けた者。(母子手帳や予防接種済証等で確認できた者。)
- (2) 過去に麻しんに罹患したことがある者。(医師の診断を確実に受けた者。)

#### 3 接種時期について

- (1) 可能な限り、麻しんが流行しやすい4月から6月中に接種を行う。
- (2) 1学期に接種できなかった者は、夏季休業中に接種を行う。

#### 4 その他

- (1) 麻しん又は麻しんの疑いと診断された場合は、速やかに学校に連絡をして下さい。
- (2) 麻しん患者と接触した可能性がある場合は、毎朝検温を行い、37.5度以上の発熱を認めた場合やかぜの症状が見られるときは、速やかに医療機関を受診して下さい。